

不安定な政局下にあるものの、 財政改革路線を進むブラジル政府

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

ブラジルでは、12月13日の上院での2度目の可決をもって歳出上限法案が成立しました。これにより、2017年から20年間、財政支出の伸びが前年の消費者物価上昇率以下に抑えられることとなります。また、財政の長期的な安定化に向けた年金改革法案が12月6日に正式に発表され、2017年に議会で審議される見通しとなるなど、財政健全化に向けた Temer 政権の取り組みが進んでいます。

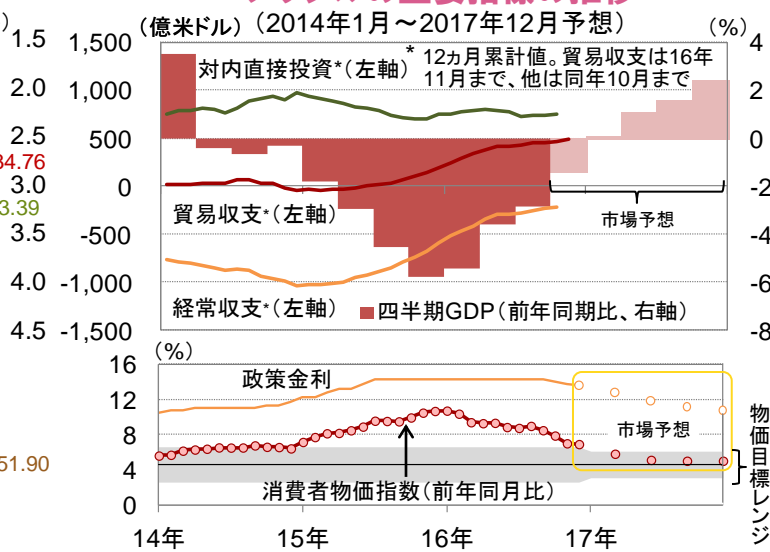
一方、ブラジルの政局は未だに不安定で、11月下旬には不正疑惑で総務長官が職を辞し、Temer 政権発足以来、6人目の閣僚辞任となりました。また、12月初めには、国営石油会社ペトロブラスに絡む汚職疑惑事件で逮捕されている大手建設会社の幹部らが、捜査への協力と引き換えに減刑などを認められる司法取引を承諾したことから、今後、様々な政党の政治家の名前が供述によって浮かびあがるとみられています。

年金改革法案は、受給開始年齢の引き上げなど、国民に痛みを強いる面もあることなどから、連立与党内にも反対の声があります。さらに、上述の司法取引に基づく供述などを受け、今後、汚職疑惑事件の捜査対象が広がるなどして、政局が一段と不安定になる可能性もあり、同法案の審議は一筋縄ではいかないとみられます。ただし、同法案が通らないようなことになれば、ブラジルは投資家からの信頼を失い、持ち直しに向かいつつある景気が市場の動揺などを通じて再度、下振れする恐れがあります。このため、かなりの紆余曲折が見込まれるものの、ある程度の内容修正などを経て、最終的には何とか成立にこぎ着けるとみられます。

ブラジル・レアルは2016年に概ね回復傾向となったものの、11月の米大統領選挙でのトランプ氏の勝利やその後の米金利の急上昇などを受け、足下では他の新興国通貨とともに対米ドルで軟調気味となっています。ただし、対米ドルで急激な円安が進んだことから、対円ではレアルは堅調さを維持しています。米金利の上昇は、同国景気の回復・拡大に伴うものであり、今後の世界景気の加速や資源の需要・価格の押し上げなどを予期させます。また、ブラジルでは、政治面での不安定さが時に波乱要因となる可能性はあるものの、国際収支やインフレ率に改善が見られるほか、相対的に高い金利水準という魅力もあり、財政健全化に向けた取り組みが進められている限り、世界の投資家の関心を集めると考えられます。

ブラジル・レアルと原油価格の推移

ブラジルの主要指標の推移



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

(予想は四半期ベース)

※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。